



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

— あいなん音故地新 —

NO WAR

毎年8月は平和を祈らずにはおれん。その想いは年を重ねるたび、強くなる。

今から約90年前の1931年、満州事変をきっかけに日本は戦争をはじめ、1945年に広島と長崎に原子爆弾が落とされ、終戦を迎えることとなる。その間14年、どれだけの命がこのために消えていったやろう。広島と長崎だけでも約21万人の命が奪われた。戦争で誰が幸せになったやろう。亡くなった命の分だけ、戦争で負った痛みや苦しみの分だけ、それに値する何かは得られたやろうか。命より大切なものがあるやろうか。それなのに今、私がこれを書いている今日も世界では戦争が続き、多くの人が命を落とす。戦争を知らず、当たり前のように明日や未来を夢見ることのできる、平和な毎日を生きてきた私はどこか現実味がなく、対岸の火事くらいに思ってしまうことがあって、そのたび反省する日々や。『無関心は最大の罪』という言葉があるように、何もできずとも関心だけは持つこうと思う。過ちを繰り返さんためにも。

戦争反対。NO WAR。

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

“9月の新着図書ピックアップ”の紹介

【絵本】

『いちごりら』

かねこまき(絵)
麻生 かつこ(作)
ポプラ社(発行)



地味な額縁の中で満足そうにほほ笑んでいるのは、なんと、いちごの顔のごりらさん。インパクトあり過ぎです。”いちごのすきな ごりらさん いっぱいいっぱい たべたらね いちごりらになっちゃった!”
ことば遊びと迫力のある絵を楽しんで。読み聞かせにもぴったり。

【小説】

『惣十郎浮世始末』

木内 昇(著)
中央公論新社(発行)



罪を見つめて人を憎まず。浅草の薬種問屋で火事が起き、二体の骸があがった。定町廻同心の惣十郎は犯人を捕らえるが、背後には黒幕の存在が。事件を追う惣十郎は驚愕の真実にたどり着く。べらんめえ口調が飛び交い、個性的な登場人物が物語を彩る。

御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ